

<軍国女性部会長シェリル・メイナー大佐の2021年3月14日のビデオメッセージ(要約)>

祖母は裏庭の焼却炉でゴミを燃やしていた世代の人でした。時代が変わりゴミ収集が行われるようになって、裏庭でこそしませんでした、家の暖炉でゴミを燃やし続けていました。そこらへんにある紙は何でも燃やしてしまい、父が会社から受けとった給料の小切手も燃やしてしまうほどだったので、家族は気が抜けませんでした。家族でコテージに出かけると、祖母はすぐに枯れ枝を集めて焚火を作りました。ある時は焚火が大き過ぎて祖母の眉毛が燃えてしまったほどです。しかし、どんなに大きな火を燃やしても、それはやがて消えてしまいます。私は修養会に参加して、賛美と祈りの中で神様の臨在を感じ、心を燃やされたことがあります。修養会が終わり、主のために働きたいという熱い思いを持って家・学校・職場に戻ったのですが、だんだん忙しさとらわれて、あんなに燃えていた火が消えてしまう経験をしました。レビ記6章に「焼き尽くす献げ物は祭壇の炉の上に夜通し朝までであるようにし、祭壇の火を燃やし続ける。祭壇の上の火は絶やさず燃やし続ける」とあります。火を燃やし続けるには燃料が必要ですが、感謝なことに神様は心を燃やし続けるのに必要なすべてを備えてくださっています。それは祈りです。私たちが神様とのつながりを保つとき、燃やされ続けるのです。イエス様は祈りの模範を見せてくださいました。朝早くに起きて祈り、一晩中祈ることもあり、人里離れた所で祈ることもありました。弟子たちがイエス様に「どのように祈ったらよいか教えてください」と尋ねた時、イエス様は「天におられるあなたがたの父に祈りなさい」と教えられました。それは、私たちが天の父なる神様と心をつないで関係を深めて行くことが大切だ、ということを示しています。神との交わりを深めるには、聖書が「絶えず祈りなさい」と命じているとおり、時間を用いて祈る必要があります。火が消えないよう見守るのが祭司の務めでしたが、同じように私たちも祭司として、心の火が消えないように注意を払いたいと思います。エレミヤ書33章に「わたしを呼べ。わたしはあなたに答え、あなたの知らない隠された大いなることを告げ知らせる」と言われています。神様ご自身が祈りへと私たちを招いておられるのです。祭司は祭壇の炎に近づいて火を整えることによって、火が消えないようにしました。私たちにとっての「火を整える方法」は、個人で祈るだけでなく、クリスチャンが共に集まり、共に祈り、礼拝し、分かち合い、励まし合うことです。そうする時に聖霊が共にいてくださり、聖書を通し、賛美を通し、神の臨在の中で、私たちの内なる火が整えられるのです。どうか、あなたの心の火が明るく燃えたち、その光が周囲の人々を照らしますように。あなたの火が消えないように、ぜひ今日という日に、心の祭壇の火を整えてください。